

参考文献

1) von Lichtenberg, F.: Infectious disease. "Syphilis". Robbins Pathologic Basis of Disease, 4th ed., W. B. Saunders, Philadelphia, 1989, 368-371
 2) Hunter, E. F., Greer, P. W., Swisher, B. L. et al.: Immunofluorescent staining of *Treponema* in

tissues fixed in formalin. Arch Pathol Lab Med 1984, 108: 878-880

3) 中村俊幸, 岸本 恭, 下澤信彦ほか: 梅毒性直腸炎の1例. 日消誌 2000, 97: 195-198
 4) 堤 寛: 梅毒性リンパ節炎 syphilitic lymphadenitis. 病理と臨床 1999, 17: 970-971

■悪性リンパ腫の皮膚浸潤を疑われた第二期梅毒疹

症例は45歳男性。4年前に悪性リンパ腫を罹患し、化学療法で完全寛解した。1週間前より、発熱とともに顔面、頸部に径8~10mm大の発疹を多発性に認めたため来院(図8)。悪性リンパ腫の皮膚浸潤が疑われて生検が施行された。組織学的には真皮中層から乳頭層にかけて、小リンパ球および形質細胞の著しい浸潤が観察され、肥厚した表皮内へ小リンパ球が exocytosis を示している(図9)。形質細胞浸潤と内皮細胞腫大がめだつ点が特徴だった。梅毒の可能性を疑って免疫染色を行うと、スピロヘータが表皮内に多数証明された(図10)。再診時、体幹部にも多数の小紅斑(バラ疹)がみられ、血清梅毒反応強陽性が確認された。教訓：梅毒病変は思いもよらないときに遭遇する可能性がある。

「I. 細菌感染症」の扉ページにも、臨床的に診断されていなかった同様の症例を提示している。



図8 45歳男性にみられた頭頸部の皮疹 発赤の強い数mm大の浸潤性丘疹が顔部および頸部に多発している。一部では表面がびらん状を呈している。臨床的には、悪性リンパ腫治療後の皮膚浸潤が疑われた(東海大皮膚科, 小澤 明博士のご厚意による)。

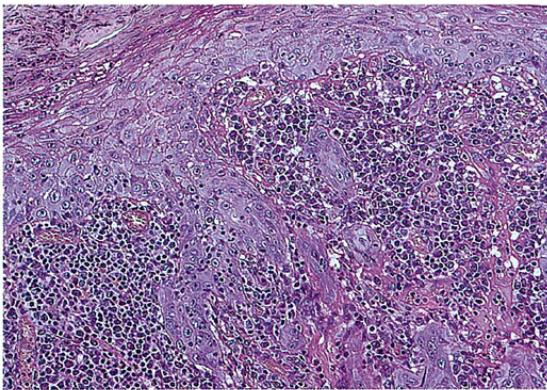


図9 45歳男性にみられた頸部皮疹の生検所見 I(HE染色) 真皮全層に異型に乏しい小リンパ球と形質細胞の著しい浸潤を認める。表皮の肥厚と exocytosis を伴っている。

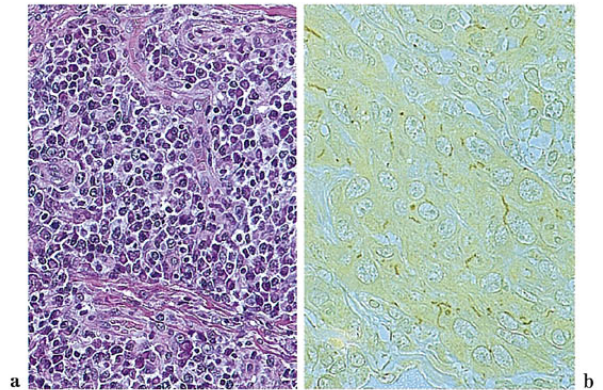


図10 45歳男性にみられた頸部皮疹の生検所見 II(a: HE染色, b: 抗 *T. pallidum* 抗血清を用いた免疫染色) 真皮血管内皮の腫大と形質細胞浸潤がめだつ。免疫染色でスピロヘータが表皮間に多数観察され、第2期梅毒疹であることが確定された。